

北海道民放クラブだより

社会活動部会の講演会

「言葉とコミュニケーション」

HBC出身の松原智津子さんが「話し言葉の持つ力と魅力」を伝えてくれた。

日曜日にも関わらず、全道各地から70人が集まり、札幌のちえりあ研修センターは熱気に包まれた。函館からは先輩アナウンサーが、また、後輩の面見の良い松原さんらしく、HBCの元アナウンサーなどが熱心に話を聞いていた。

松原「コミュニケーションの大切な手段として私たちが持っている言葉、中でも話し言葉は書きこ」とよりも一般に多く使われている。それは思いついたらすぐ表わせる。短い時間で多くの内容をそして、用具もなしに表現できる。話しているうちに次の発想が生まれてくる、という利点を持っています。



松原智津子さん

人間同士のつながりに大きな役割をもつ言葉や話すことについて改めて考え、他人とのコミュニケーションをスムーズにする基本や応用を実践的に学ぶ、ただ通じれば良いというのではなく正しくわかりやすく、しかも美しく伝えるためにはどのようなすればよいのか、さらに表現力豊かな話し方

身につけるための考え方や方法についてお話しします。」
そして「ことばについて」「話し方の基本」「対話法」「コミュニケーションについて」と4項目について話した。特に「外言語と内言語」の概念は元東京大学教授である藤崎博也氏の定義を引用した興味深いものだった。またユーモアたっぷりの解説で楽しく聞くことができ



た。ちなみに「外言語」は内言語を他人に情報伝達するための言葉で、

内言語を外言語化する作業が必要になる。会場からの質問に「私はもう歳ですもの、声はしわつぽくなりました」と明るく答えた。松原さんは、まだまだ社会で活躍して行くだらうと予感した。

社会活動部会

居住介護施設「丸心ふわり」で

紙芝居公演

昨年暮れ、札幌の「丸心ふわり」で紙芝居公演を行った。会場のホールにはクリスマスらしい飾り付けが施され、主役の4人を中心に、通所と居住合わせて20名ほどがお集まりくださった。

紙芝居は、年末にふさわしい『かさ地蔵』と『ふしぎなお客さま』の2本を用意した。作画は川島、読み手は沢井・西野で、スタッフ全員がHBC出身者という面白い組み合わせになった。お客様も静かに聞き入り大きな拍手をしてくれた。紙芝居公演のあ



と、スタッフ一同も誕生日ケーキを頂き、会場をあとにした。

少しでも和んでいただきたい、笑顔になっていただきたい、一緒に楽しみたい、紙芝居をしながら思う事はいつも同じだ。

歩くスキーの会、久々の新入会員

第51回を迎えた1月31日。羊ヶ丘展望台コースは曇り空で、気温が高めの風が冷たいコンディションでした。

今シーズンは嬉しい新入会員がありました。実に7年ぶりです。柿崎（STV）さんが加わって平均年齢も少しだけ若返りました。約1kmの周回コースを回りましたが、外国から来た若いお客さんたちは、初心者広場で悪戦苦闘です。なにしろ雪のない国のみなさんですから立つだけでも大変。

我々は上級コースをおもいおもいに3周し、気持のよい汗を流しました。

昼食会は、お馴染みの「Cafe 自休自足 六軒村店」で。石窯で提供される熱々の美味しい「塩麹入りトマトリゾット」と、ノンアルコールビールに大満足でした。